



TITLE:

四月の天象

AUTHOR(S):

CITATION:

四月の天象. 天界 1929, 9(97): 250-253

ISSUE DATE:

1929-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161396>

RIGHT:

四月の天象

太陽

太陽は月始めは白羊宮に在り。21日から金牛宮に侵入する

日	赤經	赤緯	星座	視直經	北極の傾	赤の位置
1	0時40分	北 4度16分	うた	32分 4秒	西へ26度	北へ 7度
11	1 16	8 3	うた	31 58	27	6
21	1 53	11 37	ひつじ	31 53	26	5

太陽の自轉軸は今月最も西へ傾く、赤道の位置は北へ十分行つて、南極の方を吾人に見せてゐたが、今後は徐々に視中心の方へ下つて来る。

月

月の相	時刻	星座	視直經
下弦	2日午後 4時29分 0秒	いて	29分42秒
新月	10 午前 5 32 36	うた	32 16
上月	16 午後11 9 12	かに	32 12
満月	24 午前 6 47 24	おさめ	30 14
遠地點通過	1 午前10 12	へびつかひ	29 36
近地點通過	13 午前 6 30	うし	32 42
遠地點通過	29 午前 4 0	いて	29 33

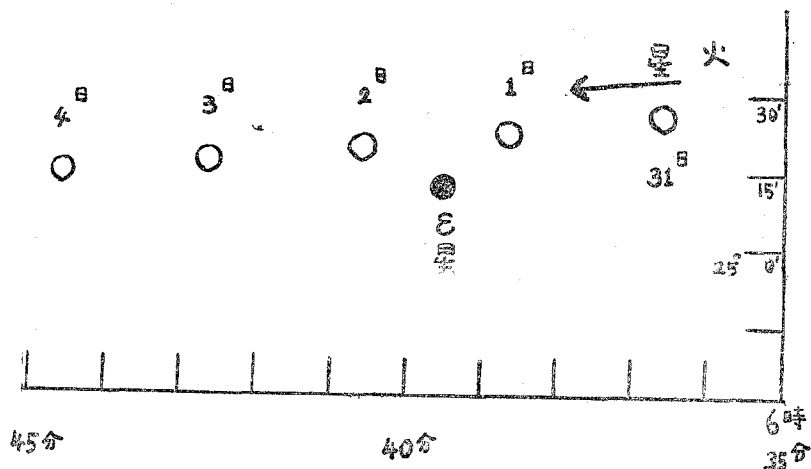
今月は遠地點を二回通過する。1日早々午後5時に土星と出會つてその南側を通過する。其後暫らくは遊星のない處を通つてゐるが、9日午前7時に天王星の南側を通過するに、直ちに又水星の南を同日午前11時に通過する。11日午前3時金星の南を通るに、續いて12日午前1時に木星に出會ふ。今月も亦随分木星の近くを通るのであるが、先月同様日本から見えない。其後16日午前5時火星の北側を通り、19午前5時海王星の北側を通り過ぎるに、29日午前0時に再び木星と出會ふ。そして其の南を通過して今月の遊星歴訪を終る。

黄道光

可成り弱い光となつたがまだまだ十分觀測は出来る。注意せられよ。

火星

最早や、火星の表面観望の時期ではなくなつたけれど、今月始めには「ふたご」座エプ星と非常に接近するので、一寸面白い景色である。圖は毎日午前九時の位置を示してあるので、圖からも見當が付く様に、最も接近するのは、丁度、今月1日の午後9時である。しかも其の時、火星は殆んど天頂に近い従つて、観望にはもつてこいの時刻である。



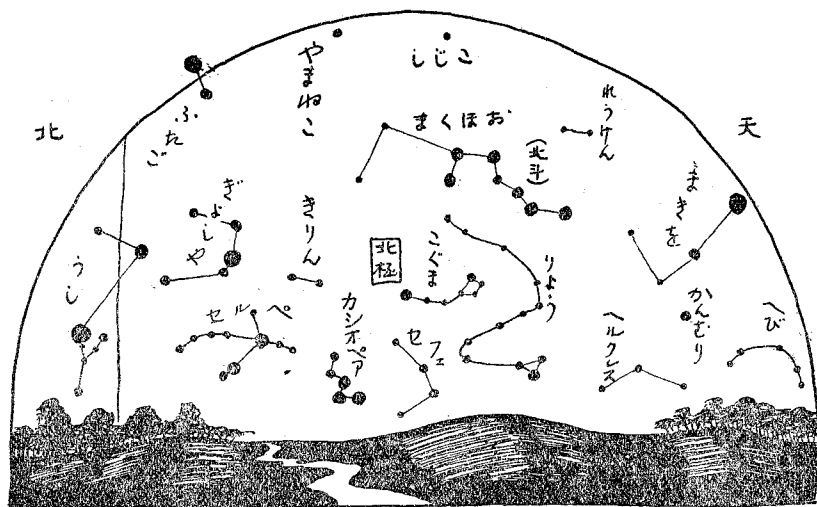
火星と「ふたご」座エプ星との接近

1日午後9時には兩星間の距離は角度で11分半程になる。其の時の火星の視直径は約7秒。光度は正1等であり、エプ星の光度は3等で、色は稍赤味を帯びた黄色ではあるが、火星の其れには及ばない。

又、此の現象と同じ様に、海王星が今月12日にレグルス星へ接近する事が起るが、これは前月號に詳記したから略す。

四月にはあまり目立つた流星群はないが、20日前後に琴座のがある。之は近年餘り、いちゞるしくはないが、嘗つて、大流星雨となつて現はれた事も屢々あるので、矢張り毎年、其頃には注意を怠つてはならない。

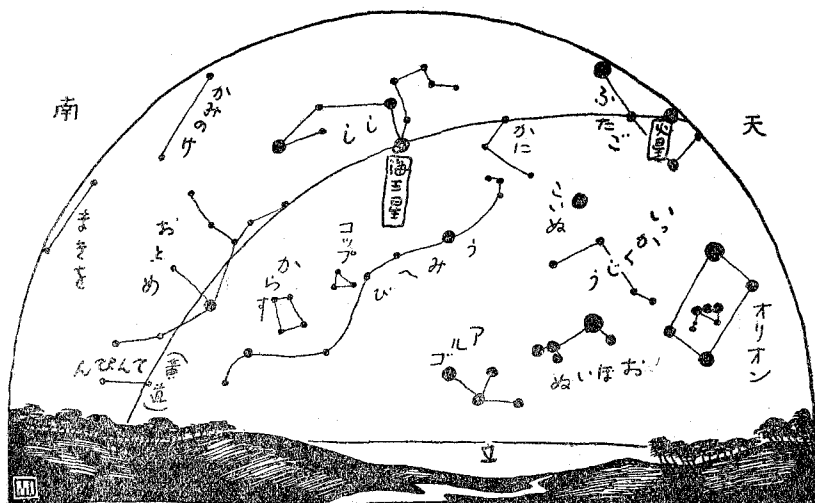
對日照は今月が最も見やすい。云ふのは丁度、出現する位置が「おこめ」座で、星の少ない所に當るので、淡い光でも認められるわけであるから。



恒 星 界

日一日ミ麥も延びて、上げ雲雀は高く囀すり、菜の花には胡蝶たはむれる。春霞棚引く野山を暖かに包んだ陽光が、やがて靜かに西へ沈むと、其處には地上の景色にもまして、のびやかな春の星座のつぎひが柔らかな光を天一ぱいに擴けてゐる。

銀河が西の空に傾いて、冬の星座のオリオンや「おほいぬ」が西山に低く懸つて「左様なら」を告げる頃、東の方からは「へび」やヘルクレスが顔を出して、「今晚は」ミ挨拶してゐる。「ふたご」「かに」「しし」「おさめ」等の春の代表者は、頭を並べて黃道に列する。殊に、全天の主人顔なる「しし」の α 星に、光度9等の海王星が、今月、最も接近するのは春らしい景色の一つである。「おさめ」の南には、愛らしい「からす」、又、其れを脊にのせた「うみへび」が蜿々たる全身を横へてゐる。北でも「りゅう」の長い身體が北極星を半ばり巻き、其の近くには「おほくま」の北斗が高く懸つて、星に馴れない人々でも、北極を探するのは容易であらう。北の地平線に近くセフェ、カシオペア、ペルセ等おちて了つたが、其の代り、「まきを」「きたかんむり」等が東に高い。



遊 星 界

水 星 曉の星である。月始めは「うを」座にあり、次第に太陽に近付く、18日午前1時、太陽と外合。それより宵の星となる。其頃から「ひつじ」座に移る。26日午前3時、近日点通過。月末になる程、太陽から離れるので観望には都合がよくなる。視直径は月始め5秒、月末には6秒。光度は約負1等。

金 星 徐々に太陽に近付いて20日午後4時、太陽と内合。従つて月末は観望は不可能であるが、月始めは暫らくは宵の空に見られる。月始め、星座は「ひつじ」座を逆行中である。光度は負4等。視直径は50秒で次第に大きくなり、最大は20日で1分の大きさ(見懸上木星の二倍)となる。

火 星 宵の星である。星座は「ふたご」座中を順行。1日夜は同星座の星に非常に接近してその北側を通過する、視直径は約7秒。

木 星 宵の西天「ひつじ」座にあり。視直径は31秒。光度は負2等、月末になる程、太陽に近寄り観望困難となる。

土 星 「いて」座の西端、銀河の中央にあり。光度正1等、視直径15秒。

天王星 「うを」座にあり。太陽に近し、月末には曉の星となる

海王星 「しし」座α星に近寄る。三月號の天象欄を参照されたし、